

## 横川 榎子



みなさんは横川榎子という人を知っていますか？

「女に学問はいらぬ。家のことをしてればよい」と言われていた明治の中ごろ、「女子にも教育が必要」と考え、八王子に多摩地方ではじめての女学校と幼稚園を作った人です。女学校はのちに、東京府立第四高等女学校(後の都立南多摩高校)にひきつがれていきます。上の写真は、昭和11年(1936)にその功績をたたえて、都立南多摩高校の校庭に建てられたものです。

## 大変な勉強家

横川 榎子<sup>かえい</sup>は嘉永6年（1853）武蔵国多摩郡横川村471番地（現在の八王子市横川町）の旧家に生まれました。父を高徳<sup>たかのり</sup>、母を新といいました。小さい頃より勉強にはげみ、漢文、習字、算数などを学びました。

明治11年（1878）からは、東京女子師範学校（現在のお茶の水女子大学。女性教員を育てるため、明治7（1874）年11月開校しました）で学び、付属幼稚園で保母見習いから保母さんとなり、のちに先生として働きました。働きながらも、保育唱歌、西洋唱歌、琴、風琴（アコーディオン）などの音楽をはじめ、物理学、高等数学などむずかしい勉強を続けました。

ここで明治時代のはじめのころの教育についてふれておきます。

明治5年（1872）に「学制」という制度ができて、全国に小学校をつくることになりましたが、当時は教育に必要なお金のすべてを地域の住民がださなければならず、多くの学校は、お寺や村の集会所を利用した小さなものでした。また、現在の公立小学校と違って、授業料や教科書代もかかりましたし、家の仕事の手伝いなどで学校にいけない子もたくさんいました。特に女子に対しては、「女に教育なんかいるもんか」「針仕事ができればいい」といった江戸時代からの考えが強く残っていました。わたしたちが住む八王子でも、明治7年（1874）の八王子の就学率（学校に行くはずの子どものうち何人が学校に通学していたかを示す割合）は、男子は46%、女子が37%でした。また、市内の先生は、すべて男性の先生でした。

このように教育の制度や組織もしっかり整っていない中、東京にでて色々な勉強を続けることは、とても大変だったと思われます。強い意志をもって頑張ったのです。

## 八王子に女子のための教育施設を設立

明治17年（1884）、父親が亡くなったため八王子に戻ってきました。

そして、八王子の女子の教育が非常に遅れていることを痛感し、自宅へ女子を集めて裁縫やいろいろな勉強を教えました。明治21年（1888）には、横山町の住宅を借りて女子のための教育授業所をつくります。明治24年（1891）には上野町4番地（今の天神町）に西洋風の校舎を建築、翌年明治25年（1892）には認可をうけて、私立八王子女学校と八王子幼稚園を設立しました。女子と幼児を対象にした教育機関は、多摩地区ではじめてのものでした。

## 女子教育の向上をめざして

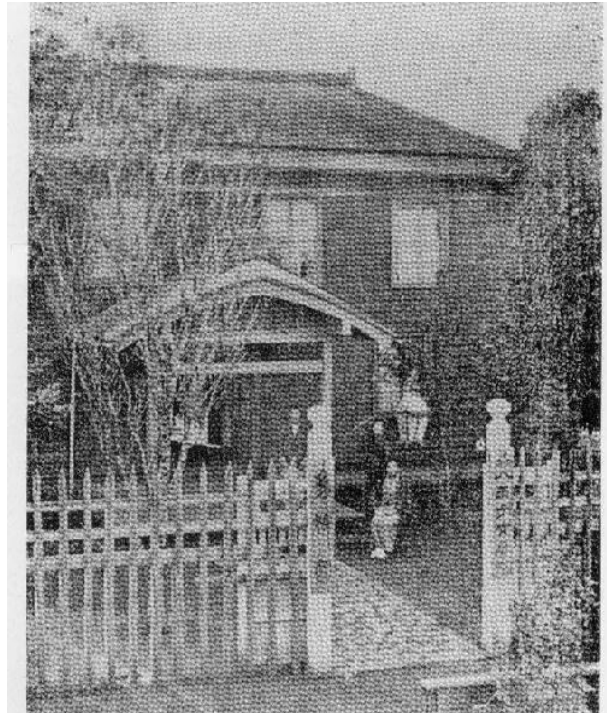
幼稚園の科目は、木の積み立て、板ならべ、  
えが  
画き方、数え方など16の科目がありました。

女学校の教科は、修身（道徳）、読書（読  
み書き）、習字、作文、裁縫、筆算などが重  
視され、そのほか希望制で西洋史や植物学な  
どたくさんの教科がありました。それには、  
たくさんの先生が必要でした。また、西洋の  
進んだ教育の道具をとりいれたため、お金が  
たくさんかかり学校経営を悪化させることに  
つながりました。しかし、榎子は自分の家  
にあるものを売ってお金をつくり、必死の努力  
で教育を続けました。「優れた教育を女子に  
も受けさせたい」という理想と強い気持ちを

持って学校維持のために頑張ったのです。明治27～28年（1894～5）の日清戦争、明  
治30年（1897）の八王子の大火事、明治37～38年（1904～5）の日露戦争といっ  
た出来事も生徒数の減少（月謝の減少）につながる大きな要因でした。明治39年（1906）  
3月までには自分のお金を数千円も使いました。明治41年（1908）の大卒の銀行の  
初任給が、35円でしたので大変な金額だったことがわかります。

## 府立高等女学校設立

歯をくいしばり頑張った榎子は東京府に表彰されるされることになりました。この頃  
には、八王子町議会も女子教育が大切であることを考えるようになり、府立女学校を八王子に  
置く努力をして、明治41年（1908）東京府立第四高等女学校が開校することになりました  
た。榎子は、八王子女学校の校舎・校具一切を東京府に寄付し、在学中の生徒のすべてを新設  
の高等女学校に入学させて、女子教育の第一線を退きました。その後も、彼女は八王子婦人  
会長などをつとめるなど活躍し続け、大正15年（1926）に73歳で生涯を閉じました。  
また、天神町の校舎は、明治41年（1908）から2年間、先生を養成する場所として使用  
され、その後、明治43年（1910）八王子町立図書館、大正6年（1917）9月市立図書  
館となり大正12年（1923）まで使われました。



▲ 私立八王子女学校

## 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。

- \* 最初にかいてある数字は、本の背表紙についている分類（ラベル）番号です。
- \* ☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

21-05 OneTwoえいと（郷土雑誌）との号 えいと舎/編 2000年  
市民によるコミュニティ雑誌。八王子の文化、伝統、人などが紹介されている。との号に「東京府立第四高等女学校と横川榎子」の記事がある。

21-26 明治時代の八王子 八王子市郷土資料館/編 1993年  
文章は少しむずかしめだが、資料や写真、図や絵がたくさんついている。

21-26 八王子市郷土資料館だより 八王子市郷土資料館/編 1991年  
No.1～No.40を集めて本にしたもの。No.3号に「女子教育の先覚者、横川榎子」がまとめられている。

☆21-29 郷土みてある記 八王子市生活文化部広報課/編 1995年  
小学校の先生が、八王子の歴史や関係の深い人物や動・植物、事柄を、小学生にもわかるようにやさしく解説したもの。

インターネット情報 「八王子市役所キッズコーナーぎんなん 明治時代  
(東京府立第四高等女学校の開設と横川うめ子)」

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/ginnan/rekishi/sub4.htm>

### 【参考】学校の歴史についての本

- ☆031 ソクソク「モノ」の歴史事典 5 2000年  
年表の形で、エピソードと写真を交えながら、わかりやすく解説している。
- ☆210 「町とくらしのうつりかわり 1」 みんなの学校、昔と今 1992年  
初めて町の姿や歴史を学ぶ小学校3年生くらいから利用できるよう、明治以降のほぼ100年の学校のうつりかわりを、写真やイラスト入りで説明。
- ☆210 ひとり調べができる 時代別 日本の歴史 9 明治時代(前期) 1997年  
学制が公布された明治時代の様子が説明されている。(P30 新しい教育)

編集・発行 八王子市中央図書館 2010年12月